

海外安全対策情報（２０１４年１０月～１２月分）

在ユジノサハリンスク日本国総領事館

１ 社会・治安情勢

当地は政治的には安定しており、現在のところ緊急事態に発展するような反政府勢力等の動きは特段見られない。

また当地ではサハリン州が北方領土を「行政管轄」していることから、北方領土問題については、ロシアの他の地域と比較して極めて過敏な反応を示す傾向があり、例年２月７日（我が国では「北方領土の日」）或いは、その日に前後して当館建物前において、北方領土返還反対団体による抗議集会が行われている。なお、平成２６年については同様の集会等は行われていないが、時の日露関係の情勢に応じて抗議集会の程度や規模も異なっており、今後も引き続き注意を要する。

２ 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）一般的治安情勢に関しては、殺人や女性などの弱者を狙った路上強盗や住居不法侵入等による窃盗、あるいは銃器を用いた凶悪犯罪、未成年者をも含む女性への婦女暴行、大麻等の薬物所持・売買事案が後を絶たない状況である。殺人は、飲酒によるトラブルに起因するものが多いが、金品の強奪を目的としたものも発生している。当地在留邦人が強盗被害に遭うケースも過去発生しており、引続き当地治安情勢への留意が必要である。

（２）治安当局の発表によれば、２０１３年にサハリン州において治安当局が認知し、登録された犯罪件数は１２、３３８件であり、２０１２年（１０、２１８件）に比較し、２０００件強の大幅な増加となった。以下の内訳にもあるとおり、２０１３年は前年と比べ殺人事件の登録件数は減少しているものの、重度傷害、強盗、薬物違法流通等の主要な凶悪犯罪はいずれも増加しており、強姦罪にいたっては前年の２倍である。その他窃盗、詐欺、粗暴行為についても軒並み増加している状況であり、犯罪登録件数上、当地治安情勢は一昨年から悪化の傾向が継続している。これらの犯罪は在留邦人の生活安全上の直接的な脅威ともなりうるものであり、引き続き当地治安情勢はこれまで以上に予断を許さない状況にあると言える。

（３）主な内訳（括弧内は前年比）

ア 殺人及び殺人未遂：７２件（７６，６％）

イ 重度傷害：２２０件（１１８，９％）

ウ 強姦及び強姦未遂：１２件（２００％）

エ 強盗：３８件（１０８，６％）

オ 略奪：４２５件（１０８，７％）

カ 窃盗：５２９９件（１２８，０％）

キ 詐欺：709件（154，1%）

ク 粗暴行為：15件（166，7%）

ケ 薬物の違法流通：1219件（115，0%）

（4）邦人被害事案

特になし

（5）邦人以外の被害事案（殺人・強盗等凶悪犯罪の事例）

ア 強盗

① 10月16日,ユジノサハリンスク警察は,州立病院から救急隊員によって刺傷と多数の血腫で52歳の地元男性が搬送されてきたとの通報を受けた。男性は,2名の不明者に襲われ,車,金銭及び電話を奪い取られたと話した。被害者の話によるとユジノサハリンスク市サハリンスカヤ通りにおいて,被害者は自らが運転するタクシーを止め,シェレズノダロージヌィ通にある家まで行くよう頼んできた男2人を乗せ,料金は200ルーブルであると伝えた。男性は,2人の若い男を指定の住所まで送り届けた際,若者の内の1人が,今,家から金を持ってくると話した。被害者は15分間待ち,そして,立ち去ることを決めたが,もう1人の乗客が車内に残っており,その乗客と一緒に家に行き,彼自身が運賃を支払うと提案してきた。被害者はこの提案に同意した。被害者が家に立ち寄ったところ,最初に車を降りた男が被害者に襲いかかり,ドライバーで被害者の首の辺りを殴った。その後,犯人は,車の鍵,金,電話を渡すよう要求した。被害者は抵抗を試みたが,何度もハンマーで殴られた。容疑者は奪った車でどこかへ逃走した。被害者は自ら,通りに出て,最初の女性の通行人に出会おうと,事件のことについて話,通報を依頼した。通行人の女性は,救急車を呼んだ。被害者の車は,即座に捜索が行なわれた。事件現場で捜査を行ったところ,警察は容疑者の指紋を発見することに成功した。彼らは,財物の窃盗での2件の前科を有する22歳と24歳の男だった。間もなく,盗まれた車が交通警察官により発見され,車内には犯人が乗車していた。容疑者は駅で電話を3000ルーブルで売ったことが明らかとなった。電話を売った金で彼らは盗んだ車の給油をし,ドリンスクの友人の下へ行くことを企てていたが,拘束された。強盗の刑事事件が提起された。

② 10月末日にユジノサハリンスク市において,2人の犯人がユジノサハリンスク市プロムィシレンナヤ通りにある個人の住居に押し入り,身を隠した。住居には64歳の女性がいた。強盗はこの女性を縛り,金を要求した。脅迫下の女性被害者は,強盗者に金は銀行に預金していると伝えた。その結果,強盗者は,約15万ルーブル,携帯電話2台を盗み,そして,姿を消した。被害者女性は解放された後,娘に警察に事件のことを通報するよう連絡した。事件現場に到着した警察官は捜索及び捜査活動措置を開始した。犯罪の痕跡により強盗で刑事事件が提起された。11月24日の週の初めに,刑事課の警察官は,不明確な状況で行われた犯罪を解明した。拘束された者については,22歳のユジノサハリンスク居住の男のほか,ドリンスク地区ヴィコフ村出身の

25歳の男であることが明らかとなった。両犯人は、以前も刑事責任を追及されたことがあった。被害者の金は、容疑者が個人で必要な物に使っており、携帯電話は、犯人達の住居を捜索する過程で発見された。

- ③ 11月19日、警察官とコルサコフ在住の男性が彼らの目の前で女性年金受給者に対し強奪を行ったロシア人の男を拘束した。19日の昼頃、コルサコフ通りにおいて、職務を行っていた社会秩序派遣警備班の警察官は、たむろしている不良少年達の中から手にビニール袋と女性用ハンドバックを持ち、走り出す2名の男に気付いた。数秒後、大声で助けを求めながら女性が彼らに続いて走り出した。警察官は、犯人たちが数的に優位なのにもかかわらず、行動することを決定した。犯人の内の1人が女性警察官の上着を掴み殴りかかったが、その後、しばらく争いが続き、男がそこから離れ、走り出した。それにもかかわらず、警察官は、コルサコフ通りからチェーホフ通りに曲がって行った強盗者の追跡を続けた。チェーホフ通りとソビエツキー通りの交差点付近において、警察の追跡を目撃した男性が警察に助勢した。警察官は、拘束した男の年齢を29歳の地元の男と特定した。その後、以前、同様の犯罪で刑事責任を問われたことのある24歳のクラスノゴルスク村出身の共犯の男を拘束した。両犯人に対し、犯罪の未遂及び公然奪取の罪で刑事事件が提起された。彼らは12年間までの自由剥奪刑になる可能性がある。

- ④ 12月5日、内務局マカロフ地区警察は、72歳の地元女性住人からの申告を受けた。女性年金受給者は、彼女のアパートにマスクをした者が違法に侵入し、1万2000ルーブルを盗んだと話した。刑事課警察官は、捜索措置活動の過程で24歳のマカロフに居住の男が容疑者であることを明らかにした。被害者のもとには、定期的に会話をし、少しの飲酒のためしばらく滞在する目的で客が訪れていることが判った。このような客の内の1人が拘束された。容疑者は、被害者女性がどこに自分の年金を保管しているか知っており、知り合い達に判らないようマスクを着用し、定期的な宴会の際に、アパートに押し入り、金を盗み、その後、姿を消した。犯人は金を持ち、逃走したが服を着替えなかったことから、目撃者によって簡単に犯人が発見された。盗んだ金の一部は犯人が新しい携帯電話の購入に使われ、残りは押収され、所有者に返還されることとなるだろう。この事実に関し、強盗の刑事事件が提起された。

- ⑤ マカロフ市で犯人が2名を殴り、強盗を行った。事件は12月5日金曜日に発生した。夜10時ころ、31歳の地元男性が住むアパートの出入口のドアを叩く音がした。ドアの前には、バットを持った男と彼の同居する女が彼を待っていた。ドアが開くとすぐに、犯人は部屋の中に進入し、アパートの所有者にバットで危害を加えた。この後、犯人は被害者の携帯電話を見て、そして、犯人は、被害者の携帯電話を取り上げた。被害者は、抵抗を試みたが、何度か殴られた。その後、容疑者は、被害者に給料口座のATMカードを出すよう要求した。容疑者は、ATMカードの残高が0であることを知っていたが、カードを奪い取り、以後、被害者の給料を自分が受け取ることができるだろう

とっていた。事件の偶発的な目撃者は、アパートの所有者の友人だった。容疑者は、目撃者を見て、彼に注意を向け、何度か彼の顔を殴り、その後、バットで彼の頭を殴った。39歳の容疑者は、多量の血を流している被害者に対し、このことを警察に通報したら殺すと伝えた。しばらくして、被害者は我に戻り、警察に通報した。刑事課警察官の捜索活動措置の過程で、容疑者が拘束された。この男はこれまで何度も刑事責任を追及されていたことが判った。以前、容疑者は麻薬の違法所持で有罪判決を受け、保護観察処分となっていた。容疑者は反社会的な暮らしをしている。奪われた携帯電話及びATMカードは押収され、まもなく被害者に返還されるであろう。この事実に関して、強盗及び殺人又は重大な健康被害の惹起による脅迫で刑事事件が提起された。

- ⑥ サハリン州捜査委員会アレクサンドロフスク・サハリンスキー捜査課によって30歳の前科のある地元の男に対して刑事事件が提起された。彼は、ロシア刑法典に規定されている司法機関に対する殺人脅迫罪の犯罪行為により起訴された。アレクサンドロフスク・サハリンスキー市裁判所の判決によって、容疑者の殺人及び強盗行為は有罪であると認められた。彼には10年10ヶ月間の重労働矯正収容所での服役による自由剥奪の刑罰が言い渡された。今年12月、容疑者は、アレクサンドロフスク・サハリンスキー裁判所での裁判の際、検察官、裁判官及び2人の捜査官に対し、暴力的な脅迫発言行為を行ったものである。現在まで、この事実に関し刑事事件捜査が続けられていた。

イ 殺人、過失致死等

- ① サハリン州捜査委員会ホルムスク市捜査課は、ニコライチュク村のある家で刺し傷、切り傷があり、暴力による死亡の痕跡が認められる56歳のホルムスク在住の男性の遺体を発見したとの通報を受けた。ロシア刑法典第105条第1項（殺人）により刑事事件が提起された。これまでの捜査によると、被害者は彼の62歳の妻がいた別荘に到着した。男性は酒を運び入れ、そして、その後、それを飲み、妻を侮辱し始めた。この間に彼女は自分に対するこのような態度に我慢が出来なくなり、ナイフを手に取り、被害者の心臓のあたりを刺した。ナイフにより受けた負傷により男性は事件現場で死亡した。年齢に免じて、また前科もないことから、彼女に関しては、現在地を離れない旨の契約による身柄保全処分となった。現在も捜査が続けられている。
- ② サハリン州捜査委員会マカロフ地区捜査課は、生後3ヶ月の幼女の死亡事実で刑事事件を提起した。捜査によると、10月18日22時45分、マカロフ地区捜査課において、同日夕方、ミリュチナ通22に所在するアパートの1つにおいて、肉体的損傷の痕跡のある幼女がユジノサハリンスクの州立小児病院に運ばれ、同病院の救命科で死亡した。事件時、幼女の両親は隣人の家を訪ねており、幼女は48歳の知り合いの女と家に残っていた。アパートの脇を通り過ぎた両親の知り合いが、幼女が泣き声を聞いたことから、アパートに立ち寄ったところ、女が幼女の両足を持ち、逆さ釣りの状態で

持っているのを見た。彼はすぐにこのことを両親に伝えた。この後、友人は家族と共に女の暴力を阻止するため、彼女の胸を拳で一度殴り、更に、木製の椅子で彼女の背中を一度、殴り、そして、母親は、包丁を持ち、女の腹部を一度、切りつけた。現在、容疑者は、重症で病院に入院している。刑事事件捜査が続けられている。

- ③ サハリン州捜査委員会ドリンスク市捜査課は、ブイコフの外れで発見された暴力の痕跡がある34歳の地元の男の遺体に関して、刑事事件を提起した。

捜査の中間報告によると、10月17日に被害者は38歳の兄とともに、ブイコフ村パルコーバヤ通りのある家に住む59歳の知人の男も下を訪ねた。その他に彼の55歳の隣人も彼の家を訪れた。男性達は、飲酒を始め、飲酒をしている最中、男性達の間で言い合いの喧嘩が起こり、その結果、家主と彼の隣人が鉄製の棒を持ち、被害者の兄弟の頭に多数の打撲を与えた。この後、容疑者達は、被害者達を車に載せ、ブイコフ村の外れに向かった。車はブイコフに向かう途中で停車し、容疑者達は歩いて家に戻り、そして、朝になって車に戻った、容疑者達は、被害者の内の1人の遺体を発見したが、もう1人の被害者の姿を見つけることができなかった。犯人達は、遺体を森に運び、そして、遺体を防水シートで覆い隠した。容疑者達が家に戻る際、ブイコフ方向に向かって歩くもう1人の被害者を見た。容疑者達は、被害者を車に乗せ、容疑者の内の1人の家に連れていき、被害者はそこに4日間居た。その後、被害者は家に戻り、そこから病院に搬送された。容疑者達に関しては、裁判所により、守衛の監視の下、拘留措置が取られている。この刑事事件に関して、捜査が続けられている。

- ④ 11月3日、サハリン州捜査委員会ノグリキ地区捜査課は、ノグリキ市レピナ通2に所在のアパートの一室で胸部と膝関節に刺傷の暴力的な痕跡が残るこの家の50歳の女性家主の遺体を発見したとの通報を受理した。ロシア刑法典第111条第4項（過失致死）により、刑事事件が提起された。捜査によると、11月3日、被害女性は、26歳の自分の娘と共にアルコール飲料を飲み、その後、女性は就寝したが、娘はまだ飲酒したいと思い、就寝している母親のもとに行き、金を要求した。この要求を拒否されると、娘はキッチンに行き、ナイフを持ち、そして、母親を少なくとも2回刺し、死亡原因となった傷を負わせた。証拠の収集及び確保のための捜査活動が行なわれている。

- ⑤ 「レストーチカ」の集合墓地で発見された死亡した男性の身元が明らかにされた。遺体の法医学検査結果により、男性は頭蓋骨内の脳損傷の結果、死亡に至ったことがわかった。サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課は、刑事事件を提起した。死者は42歳のユジノサハリンスク市の男性住民であることがわかった。同様に容疑者も明らかとなった。容疑者は、ユジノサハリンスク市に住む39歳の多数の前科がある男であることがわかった。捜査により、11月1日の夜、被害者は、アルコールにより酔っ払っていた。ジェレズナダロージヌィ通りのある商店で被害者は、容疑者と出会い、そこで被害者と容疑者の間で喧嘩となった。喧嘩の過程で、容疑者は被害者を商店から追い出し、そして、車に乗せ、9番学校の地区にある駐車場まで被害者を連れ

て行った。そして、容疑者は被害者を車から引きずり出し、被害者の体のあらゆる部分を手や足で何度も殴り始めた。その後、容疑者は再び、被害者を車の乗せ、集合墓地地区まで運び、そこで再び、被害者を何度も殴り、事件現場から立ち去った。現在、刑事事件の捜査が続けられている。

⑥ 11月26日夜、サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課は、ユジノサハリンスク市の女性住民から彼女の58歳の同居の男が85歳の自分の父親を殺し、解体したとの通報を受けた。この事実に関し、刑事事件が提起された。直ちに、機動捜査班が事件現場（ノバアレクサンドロフスク地区クルチェックスク通21）へ出発したが、ススエ川で焼け焦げた人間の遺体を発見した。容疑者は拘束され、事件発生の原因が解明されつつある。

⑦ 12月22日の深夜、サハリン州捜査委員会ノグリキ地区捜査課において、ノグリキ市ダーチノイ通りのある家屋において53歳の男性家主の遺体が発見されたとの通報を受けた。遺体の法医学検査に結果により、射撃による胸腔の負傷の結果、男性は死亡した。この事実に関し、刑事事件が提起された。この犯罪行為の容疑により、27歳の殺された男性の継子が拘束された。捜査請求により容疑者に対し、看守の監視の下での拘禁による時効中断措置が選択された。捜査により、被害者は長時間、自分の妻を侮辱し、屈辱を与えていた。彼女は男のこのような態度に耐えかね、男性のもとから逃げようとした。女性の息子は、義父に対し、母親を侮辱することを止めるよう再三、警告したが、男は妻に対し、卑劣な態度を取り続けた。暫らくの間、夫は妻を侮辱し続け、息子も同様に侮辱した。その後、息子は銃を手に取り、義父が居る家に行き、そして、被害者の胸部に向け1回撃った後、容疑者は事件現場から立ち去った。射撃による負傷により男性は死亡した。

ウ 暴行・傷害・強姦等

①〔傷害〕10月3日夕方、トマリ市警察内務部の警察官は、個人を監視下に置き、計画的な捜査を行った。トマリ市アントン・ブユコーラ通のアパートに警察官が立ち寄った際、床に倒れている男性を発見した。検査により警察官は、この男性が強く殴られ半気絶状態であり、彼の耳殻が切り落とされていたことに気付いた。警察官は直ちに救急車を呼び、警察の当直部門に事件を報告した。その日の夕方、前科のある男性4名は飲酒していたことが分かった。その際、彼らの内の2人の間で喧嘩となった。その結果、27歳の地元の男が自分を侮辱した52歳の男をフライパン、腕、足で何度も殴り負傷させ、そして、その後、耳殻を切り落とした。事件現場に到着した医療班は、被害者を入院させた。事件現場の捜索の結果、警察は、変形したフライパン、褐色の染みがある包丁及び2片の人間の耳殻を発見、押収した。この事実に関し、刑事事件が提起された。容疑者は身柄拘束下にある。

②〔強姦〕サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課は、ユジノサハリンスク市

に住む2人の女性から、10月のある日の日中にユジノサハリンスク市ユジノサハリンスカヤ通り123-1に所在の廃屋に未成年の6歳と9歳の少女を連れていき、少女らにセクシャルハラスメント行為を行なった人定不明の男の刑事責任を問うことに関する申告を受けた。この事実に関して、ロシア刑法典第132条第4項第6号の性的な性格の暴力行為に規定されている犯罪構成要件により、刑事事件が提起された。現在、この犯罪を行なった個人を明らかにするため捜査活動が行われている。

エ 窃盗等

- ①〔窃盗〕10月5日、ユジノサハリンスク警察に地元男性住民が窃盗について訴えた。男性は、前日、自分のATMカードから幾らか現金を下ろそうとして、ATMカードをATMに忘れてしまったと話した。男性は15分後、そこに戻ったがATMカードはすでになかった。更に15分後、電話に銀行口座から1万ルーブルが引き出されたとの通知が届いた。被害者はすぐその場で銀行にATMカードを止めるよう依頼の電話をすると共に、警察に事件を通報した。警察の機動捜査班が捜査し、ATMカードの紛失に関与している人物を明らかにした。犯人は、ユジノサハリンスク市に住む43歳の男であることが判った。容疑者は、被害者が利用したATM機があるショッピングセンターで警備員として働いていたことが明らかとなった。買物客の1人がATM機にカードが忘れられているのを見た際、男はATMカードを使用することを決めていた。容疑者は、上述の額の金を下ろし、そして、今後更に金を下ろすためにATMカードを持ち去った。しかし、この時、被害者はカードの盗難に気づき、彼の試みは成功しなかった。十分な収集証拠により、容疑者は自らの行為を認め、盗んだカードと金を警察官に提出した。この事実に関して窃盗の刑事事件が提起され、容疑者に関しては、現在地を離れない旨の契約による身柄保全処分となった。
- ②〔窃盗〕10月13日深夜、ノグリキ地区ガリャチエ・クリュチ村の商店で窃盗が行なわれた。窃盗物は、水4ケース、タバコ3カートンであった。商品の所有者の損害は1万5000ルーブルになった。事件現場に、通報を受けた内務局の警察官がし、捜査活動の過程で容疑者を明らかにした。容疑者は、66歳のユジノサハリンスク市に在住の男で、ガリャチエ・クリュチ村には魚釣りや治療に来ていた。男は窓を通じて店の中に侵入し、商品を人目の付かない場所に運び出した。警察は窃盗物を押収し、刑事事件が提起された。

オ 薬物・銃器

- ①〔薬物〕10月15日、州流通麻薬対策局の職員はサハリン州内務局保安課の機動捜査班と合同で、ユジノサハリンスク市内務部に所属の警察官（巡査）のアパートにお

いて、粉末状の物質が入った小袋を発見し、押収した。押収された物質の量中、0.61グラムの多量の麻薬物質が混入することが鑑定によりわかった。州内務局の幹部によって予備調査を行なうことが決められ、調査の結果によっては、警察官は内務局機関の職務からの免職及び現行法に基づき責任を問われることとなるだろう。外部警備部の直属の上司についても重い懲戒責任を問われることとなるだろう。

②〔薬物〕10月21日、今年の初めからユジノサハリンスク市において、合成麻薬の販売に従事していた組織犯罪グループの活動がサハリン州内務局の刑事捜査局の警察官によって根絶された。犯罪は全て計画に沿ってそれぞれ、自分に役割を割り振られた者によって行なわれた。犯罪グループのある者は、麻薬を保管し、またある者は次の共犯者が販売を目的に麻薬を小分けするために、大量の荷物（麻薬）を運ぶことになっていた。犯罪ビジネスの主犯からの指示は携帯電話により送られていた。不正取引で押収された合成麻薬は、4種類、合計15キログラム以上であり、大部分は、喫煙用の混合物のほか、それを製造するための薬剤及びナイトクラブで流行している「スコーラスチ」（スピード）（注：覚せい剤の俗語）として知られている嗅ぎタバコ粉末であった。押収された麻薬の価格は、「闇市場」で5000万ルーブル以上になる。麻薬物質の販売又は運搬により22件の刑事事件が提起された。容疑者には最高で終身自由剥奪刑になる虞がある。その他、この事件の捜査活動の過程で、ロシア連邦領への麻薬の運搬経路に関する情報を入手した。この情報は他の犯人の捜査を行っていた同僚が適時に入手した。麻薬の違法流通の捜査の結果、外国において、35キログラム以上の合成麻薬が押収された。

③〔薬物〕サハリン州流通麻薬対策局の捜査官による若い男の搜索活動措置の過程で違法販売を目的に男が自ら保管していた合成麻薬を発見し、押収した。そのほか、彼の居住地において、同様に捜査官が大量の合成麻薬を押収した。若い男が未成年であることを考慮して、搜索活動措置の訴訟手続きを取ることを決定するための資料は、未決として捜査委員会捜査課に送られた。未成年者に関して、大量麻薬物質の販売準備により刑事事件が提起された。このほか、捜査委員会捜査課の捜査官及び州流通麻薬対策局の捜査官は、捜査及び搜索活動措置のため、ウラジオストクに向かい、共犯者を同様に拘束した。捜査により、17歳のウラジオストクに住む容疑者の男は17歳の友人の男とともに、サハリン州で合成麻薬を販売する目的で郵送により麻薬をウラジオストクからユジノサハリンスクに送った。その後、容疑者は、麻薬を麻薬使用者に販売する目的で麻薬を受け取り、小分けにし、市内の点在する隠し場所に麻薬を隠した。未成年の容疑者達は、監視下留置され、時効中断措置が取られた。

④〔薬物〕12月12日、流通麻薬対策局の電話相談において、ユジノサハリンスク市ガイドゥッカ通1Aに所在のアパートの住人から、あるアパート住民が自分の部屋でコデイン製剤から麻薬を製造するための地下工場を作っているとの通報を受けた。この住所はすでに流通麻薬対策局の職員が麻薬の製造と使用に関して度々、家主と彼の友

人の不意を付いて訪れていた。35歳の麻薬製造者は、度々、刑事及び行政責任に問われていたが、彼は麻薬の製造を止めず、アセトンとガソリンの悪臭を通路に漂わせ、隣人に迷惑をかけ続けた。今回、ヴラジミールは、友人と共に手に入れたコデイン含有製剤、ガソリン、マッチの硫黄部分等を基に麻薬「クロコダイル」を製造し、その後、それを使用していた。そして、全く待つことなく、流通麻薬対策局の捜査官が彼らの「リラックス時間」を邪魔した。麻薬中毒者の客は、麻薬の製造は自由を失うことになることと知っていたことから、全ての罪を家主に転嫁した。犯罪行為についての証拠となる麻薬溶液を製造した容器、医療用注射器、残存麻酔剤の全ての物件は、鑑定のため、サハリン流通麻薬対策局の研究所に送られた。35歳のサハリン在住男性に対して、現在、刑事事件が提起された。

- ⑤〔薬物〕2日前（12月13日）、サハリン州流通麻薬対策局の捜査官は、アムール州からサハリン州への地域間のカンナビス系麻薬物質の供給を撲滅するための特殊作戦の1つを終了させた。麻薬の保管及び販売に関与している個人を明らかにするため、州流通麻薬対策局の捜査官は尽力し、ついに全ての犯罪グループに関わる者を拘束した。つまり、しばらく前、数人のホルムスクの住民がサハリンの住民にカンナビス系麻薬の販売のため、発送する犯罪の共謀に加担した。この犯罪組織においては、明確に役割分担がなされ、ある者はハシシオイルを組織の首領に納入する役割を行い、ある者は、麻薬の小分けと会計係を行い、ある者は、商品（麻薬）の小売りを行った。特殊作戦の過程で麻薬製品を購入していた者が拘束された。拘束者の検査及び彼らの部屋及び車の検査の際、捜査官が大量のハシシオイルを発見、押収した。残りの犯罪グループのメンバーは、ほんの僅かな自由な時間を満喫していた。拘束された麻薬ビジネス組織の首領は、アムール州の住民であり、サハリンの領域への麻薬の供給に従事していたことが分かった。このほかに、彼自身は、麻薬ビジネスの発展経過をコントロールし、麻薬の売却で得た金を受け取っていた。犯罪グループのメンバーに関しては、組織による大量の麻薬物質の販売目的の製造より刑事事件が提起された。この特殊作戦により、州流通麻薬対策局の捜査官は、違法流通の約5キログラムのハシシオイルと大麻を押収した。押収麻薬の量は、10万回分に相当し、価格は「闇市場」で1000万ルーブルとなる。

- ⑥〔薬物〕サハリン州流通麻薬対策局ホルムスク地区課の捜査官は、ホルムスク市パルトーバヤ通のある家屋が麻薬密造所として稼働しているとの情報を受けた。この情報を調査するため、事件現場に機動捜査班が出発した。事件現場に到着した流通麻薬対策局の捜査官は、ホルムスク市パルトーバヤ通8に所在の家屋の屋根裏部屋にある麻薬密造所を発見した。事件現場の屋根裏部屋の検証の過程で流通麻薬対策局の捜査官は、外見が麻薬と類似する物質、麻薬「クロコダイル」を製造するための容器、静脈内に麻薬「クロコダイル」を入れるためのポリエチレン製の注射器、アルカリ溶液、ガスコンロ、「クロコダイル」を製造した際にできたドロドロの液体を発見し、押収した。

全ての発見物は,州流通麻薬対策局ホルムスク地域課の捜査官が州流通麻薬対策局の鑑定機関に送った。鑑定の結果により,麻薬密造所の組織に関与している個人は,刑事又は行政責任を追及されることとなるだろう。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

特になし

5 日本企業の安全に係る諸問題

特になし

1月～12月のユジノサハリンスク市内の犯罪発生場所

